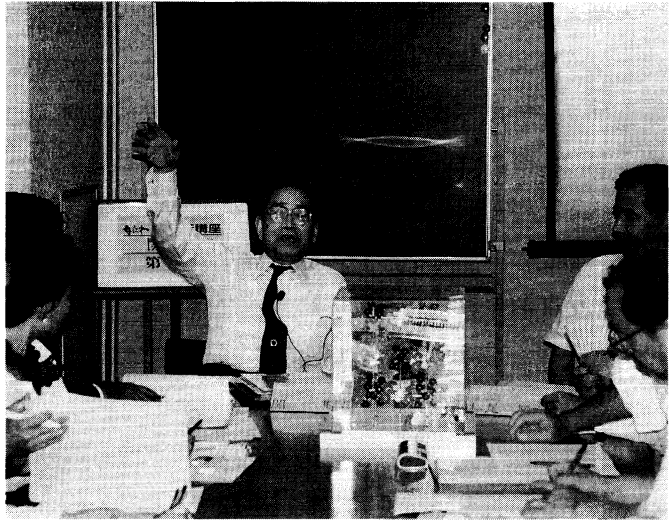


関集三名誉教授の「なにわ塾」対話講座

大阪府立文化情報センターでは市民に向けての文化活動の一つとして対話講座「なにわ塾」を開催しています。塾長は大阪大学前総長熊谷信昭名誉教授が務めておられます。この講座は大阪を中心に活躍される各界の方々を講師に招き、小人数の塾生が対話形式で先達の知恵を学ぶことを目的として毎年おこなわれるも



身ぶりをまじえてなにわ塾で講義をされる関教授，1994年9月22日大阪府立文化情報センターにて

ので、今年で15回目になります。今年の講師のひとりは大阪大学で熱測定による物理化学研究をはじめられた本学名誉教授関集三先生です。先生は、大阪大学で化学熱力学の研究を開始し育てた経験を中心に、5回にわたって17名の塾生をまえに話をされます。先生の講義全体を貫くテーマは「物質世界のおもしろさ」と言うべきものです。第1回がすでにおこなわれ、塾生の熱心な質問で予定の2時間を超過しました。

なにわ塾では毎年4人の講師による対話講座が開かれます。今年を含めこれまでに60名の講師によって講座が行われておりますが、今までに産業・経済界，芸術，文芸，社会活動などの分野が主にとりあげられて来ました。これは大阪文化の特徴と人々の関心の在処を反映しています。人間世界を主なテーマとするこれまでのなにわ塾のなかで、関先生の、ハードサイエンス，物理化学を一般の人々に語るという試みは、かつて行われた生物学の神谷宜郎教授や生化学の赤堀四郎教授の講座の方向をさらに押し進めるものです。

塾生は広く一般から応募された方々で、会社員，公務員，主婦，悠々自適の方と様々の知識と経験をもつ人々です。ひろく一般市民に科学を語る試みは19世紀にファラデーによってクリスマス講演として行われました。同じ頃大阪では適塾が開かれ、近代学問が芽生えました。関先生のなにわ塾講座は「市民のなかのサイエンス」推進に大きい力を発揮するに違いありません。

(松尾隆祐 記)